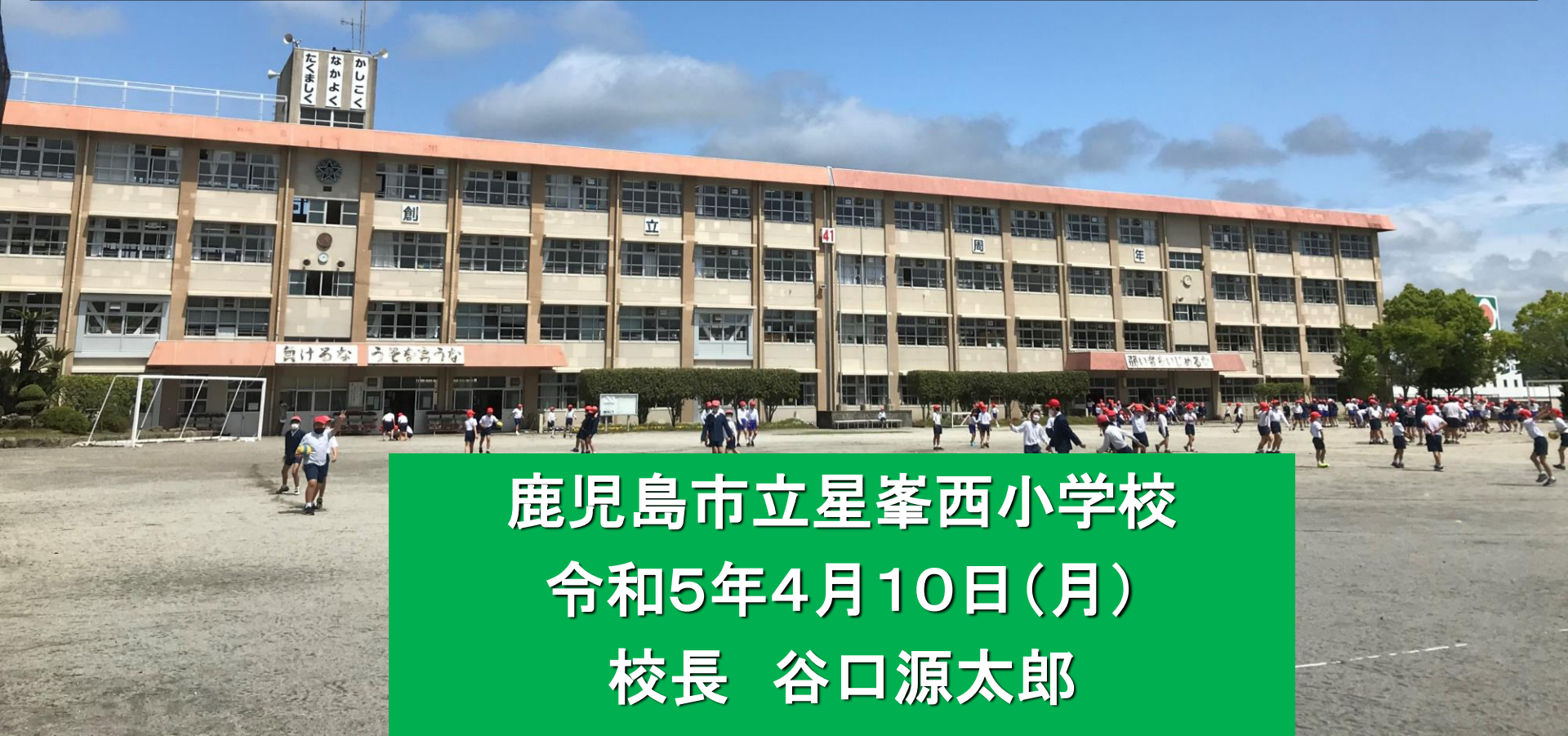


第1回学力向上委員会全体会

「確かな学力」を育む

これからの新たな学習指導システムの構築
～アナログとデジタルの学習指導の融合を目指して～



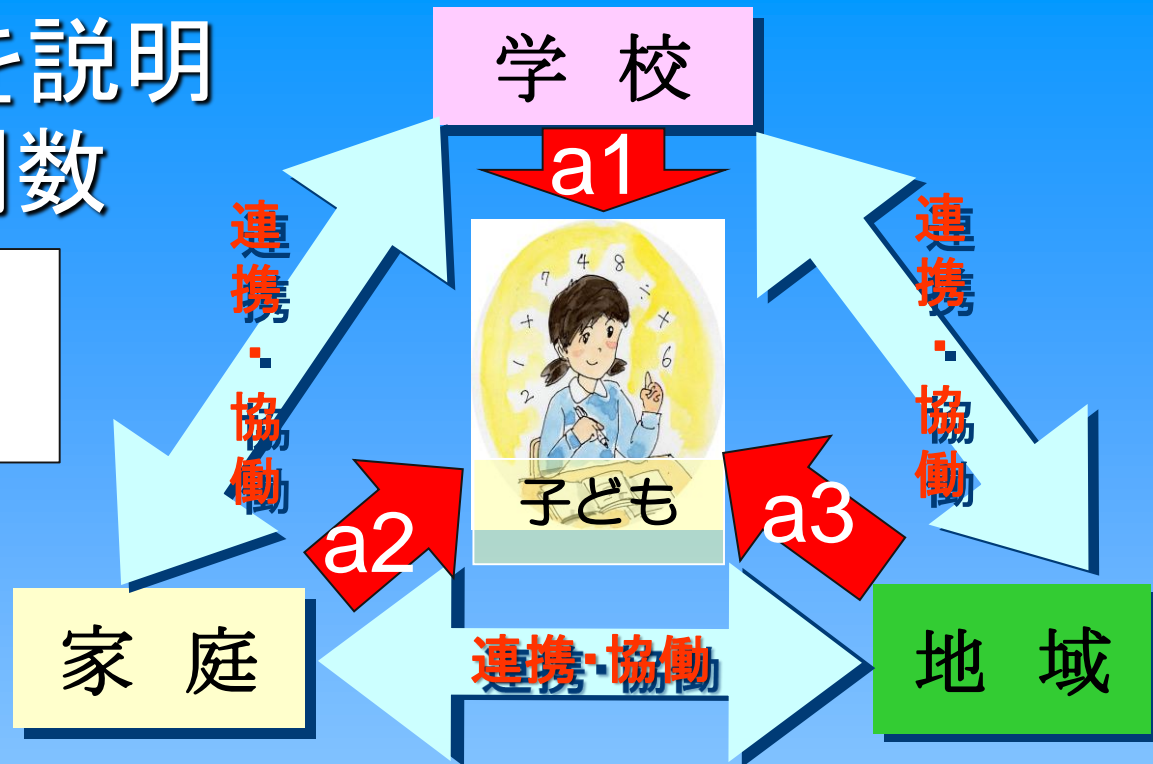
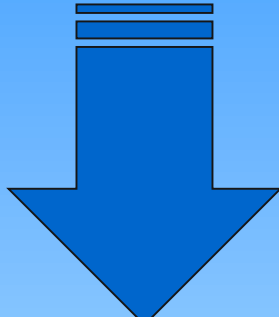
鹿児島市立星峯西小学校

令和5年4月10日(月)

校長 谷口源太郎

教育活動の成果を説明 するための一次関数

$$y = at + b$$



y: 今年度の教育活動の成果

※指導率

a: (a1学校 + a2家庭 + a3地域) の教育力

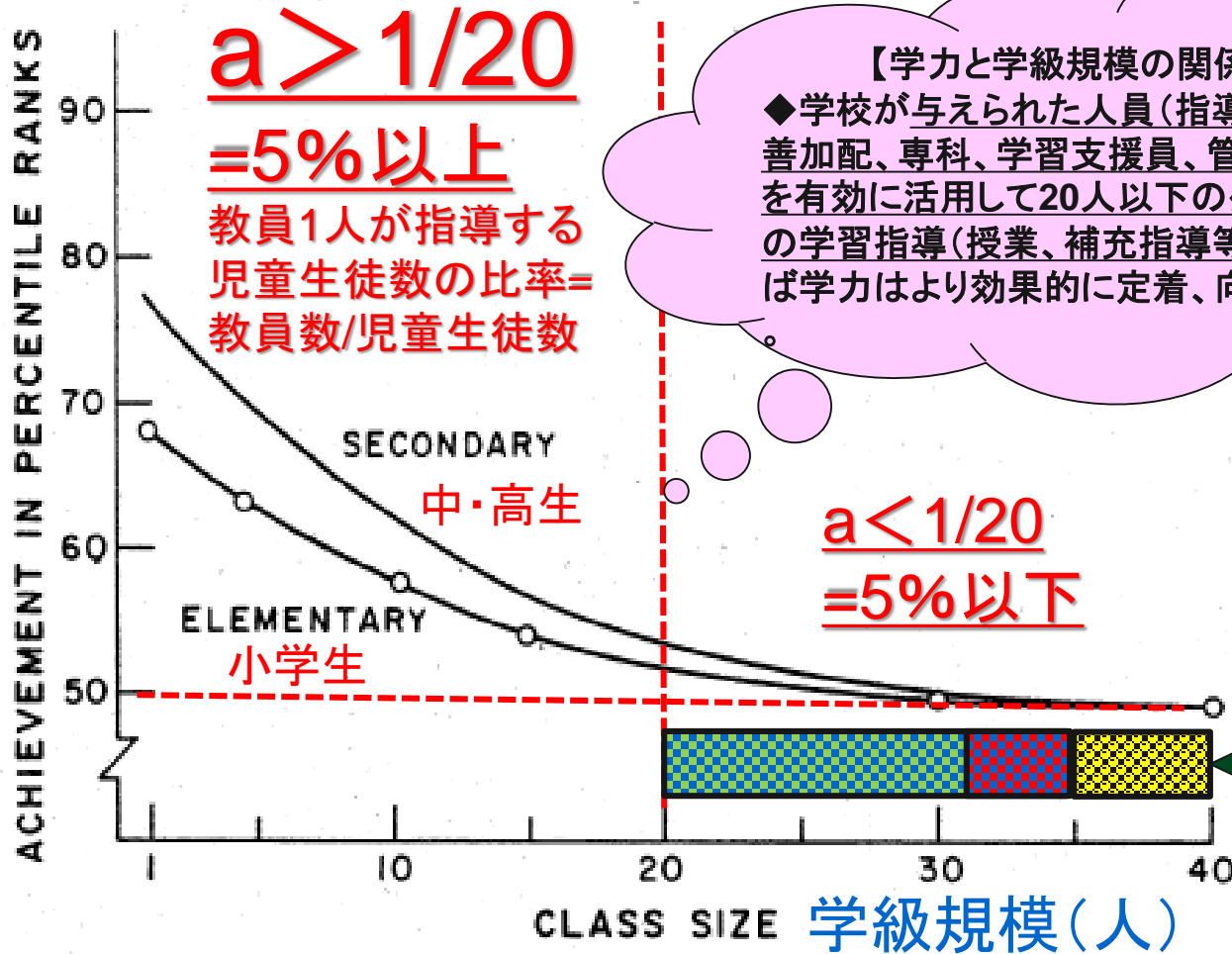
t: (t1学校 + t2家庭 + t3地域) で関わる時間等

b: 前年度までの教育活動の成果

質
×
量

学力と学級規模の関係(グラス・スミス曲線)

学力(百点満点)



【学力と学級規模の関係】
 ◆学校が与えられた人員(指導方法改善加配、専科、学習支援員、管理職等)を有効に活用して20人以下の少人数での学習指導(授業、補充指導等)を行えば学力はより効果的に定着、向上する。

義務教育標準法
 40年ぶりに改正
 ・2/2閣議決定
 ・35人学級法案
 2025年度までに
 小学校全学年に
 順次導入R3:小2
 R4:小3 R5:小4
 R6:小5 R7:小6
 ・鹿児島県小1・2
 年すくすくプラン
 31~35人学級に
 1人配置(TT)有
 ・中学校の40人
 学級は現状維持

FIGURE 3. Consistent regression lines for the regression of achievement (expressed in percentile ranks) onto class size for elementary and secondary grades.

- ①クラスの規模が小さいほど学力が上がる。
- ②中高生の方が小学生よりも少人数学級の恩恵が大きい。

グラス,S.Vとスミス,M.L著コロラド大教育研究所「学力と学校規模の関係を示すグラフ」(1979)p14から引用

ID教育・IDに基づく学習指導とは、

教育・学習分野にID(import data)を導入する考え方のこと。

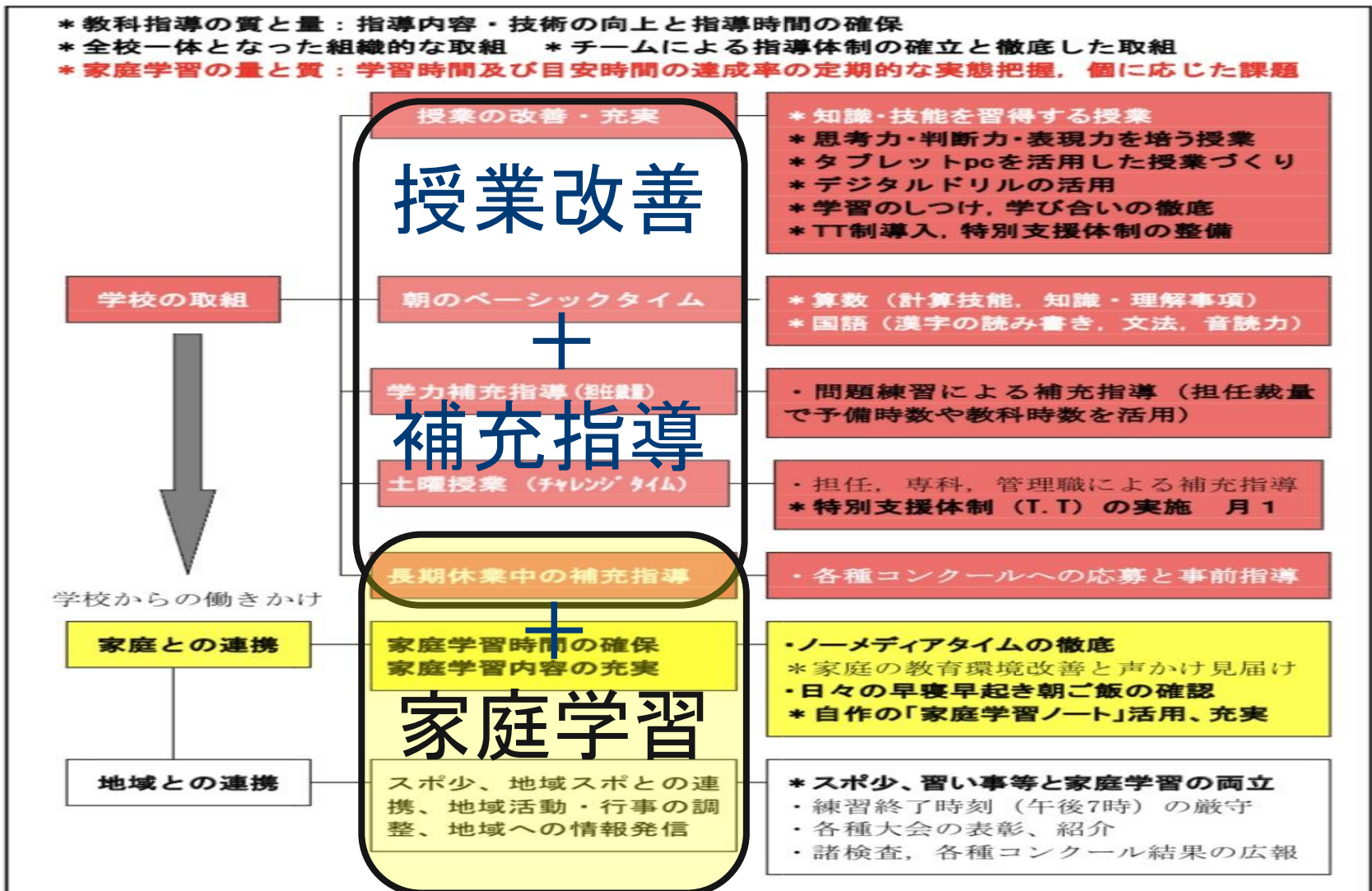
野村克也がヤクルトスワローズの監督時代に提唱した野球理論を教育・学習の分野にも生かそうとする考え方である。

- ① 学習指導をこれまでの教師の経験や勘に頼るのではなく、データを駆使して科学的根拠(evidence)をもって進めていく。
- ② 学習指導を量(時間、回数、人員等)と質(課題内容等)の2つの側面から分析して、学力向上に取り組んでいく。

学校名	(a)指導フック数(人) 教頭含む 教諭数	(b)児童生徒数(人) 通常学級数 特支除く	指導者1人が1人の児童生徒に指導する比率 (a÷b)%	少人数指導の授業実施状況	【朝の学習】 実施状況 (週回数等) ※TT有無 ※取り扱う課題	【放課後等】 補充指導状況 (週回数等) ※TT有無 ※取り扱う課題	【土曜授業】 補充指導状況 (年回数等) ※TT有無 ※取り扱う課題	【家庭学習】 平均時間、 達成率等 保護者の協力度合い	【家庭学習課題】 家庭用学習専用 ノート使用の有無 漢字、日記、宅習帳 の活用状況	【学力向上・ 対策委員会 開催状況 (開催頻度)	小5 学定結果 R4年度 全国学テ
星峯西小	27人	546人 17C	4.9%	○	○ 週2	×	○ 月1	○	○	○ 月1	小5 国: +6.9p 社: +1.3p 算: +0.4p 理: -3.3p 小6 国: +2.4p 算: +0.8p 理: +7.7p
	30人	613人 18C	4.9%								

学力を向上させること(q)とそのための取組(p)

$p \Leftrightarrow q$ 必要十分条件(同値)の関係になっているか？



学力定着のイメージ(※①②③すべてがそろおう)

つくる

とりだす

①input

③output

新皮質

しまう

旧皮質

②keep

授業改善

問題練習

学校での補充指導(量と質)

+

家庭学習(量と質)



【子ども・教科・学級レベル】学習課題の重点の置き方

子ども・各教科・学級・学校全体の平均通過率(上位層:平均以上、中位層:平均並、下位層:平均以下)に応じた学習課題の与え方は？

課題の種類 階層	【基礎・基本】 読み・書き・計算等の 知識, 理解, 技能等 A問題(主に知識)	【応用力, 活用力】 自ら考える力 思考・判断・表現 B問題(主に活用)	【その他】 家庭・地域との連携 学校の教育環境等
上位層 子ども・ 教科・ 学級	○	◎ 重点	◎ノーメディアタイム、早寝 早起き朝ごはん ◎うち読 ◎家庭学習ノートの有効 活用
中位層 子ども・ 教科・ 学級	◎ 重点	○	◎スポ少、地域スポ、習い 事との両立 ※家庭学習の課題も個 に応じて与える。
下位層 子ども・ 教科・ 学級	◎ 重点	※どれだけ個別最適 化された学習課題を 与えられるか。	・共通課題:基礎問題 ・個別課題:応用問題 自主課題 ※デジタルドリルの活用

【教師の指導力(質)と関わった時間(量)についてのモデル図】

教師の指導力と関わった時間が子どもにどの程度の影響を及ぼすのだろうか？

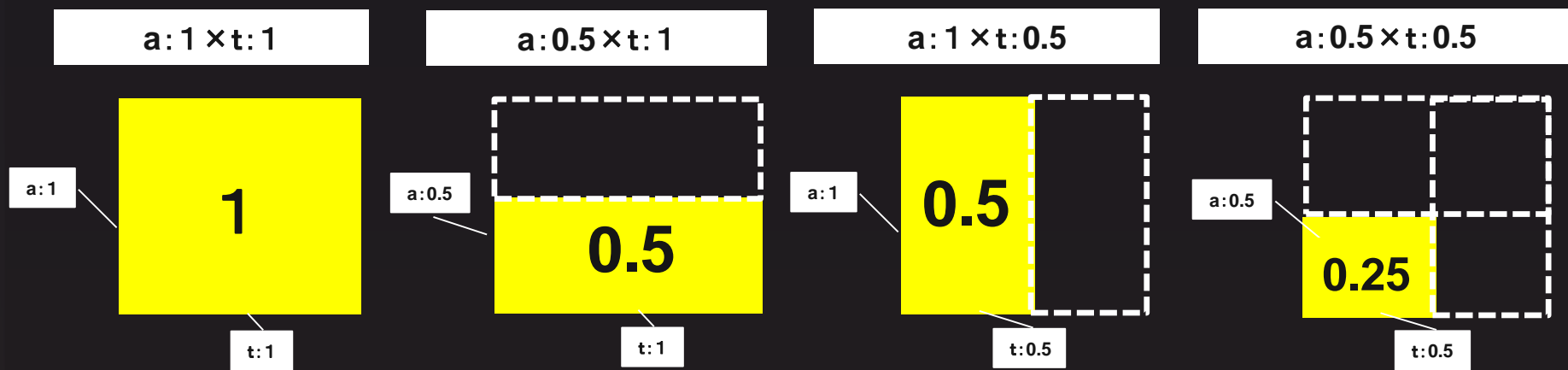
◆教育活動の成果＝教師の指導力：(a)×時間：(t)

指導力(a)：学習指導力・生徒指導力・連携協働力・課題対応力、(教養、人間性)等

※かごしま教員育成指標の「求められる資質能力」から

※a=1は平均的な教師の力量

時間(t)：指導力を発揮して関わった時間



【私たちが取り組むべきこと】

- 私たち教師は、日々努力を積み重ねながら自分自身の指導力向上に向けて取り組んでいかなければならない。(職員研修の必要性)
- 自分自身を磨き、高めた指導力をもって常に子どもに関わっていかなければならない。
- 教師が子どもに十分な指導の時間をとってきめ細やかに関わった分だけ、子どもの姿となって成果が現れる。(十分な時間の確保ときめ細やかな指導)

学力向上策の定量化

◆授業

中学年算数科少人数指導(3クラス4展開)

週5回×45分×35週=年間175単位時間

※授業時数的にはどの学校も同じであるが
指導体制面(指導率)、小学校高学年専科制、
タブレット端末(デジタルドリル等)の活用の違いで学力に差が出るのではないか?

授業以外(学力補充指導) + αの時間

◆朝学習

ベーシックタイム: 計算, 漢字, 文法等(15分)

毎週火木2回×15分×35週=年間1050分

◆土曜授業(学力補充の時間)

パワーアップタイム: 習熟問題等(45分)

第2土曜月1回×45分×9回=年間405分

※年間合計1455分≒5日分の授業時間数

1週間分の授業時間数(分)45分×29コマ=1305分

◆家庭学習

自作家庭学習ノートを使用しての漢字・日記・ローマ字・計算等の共通基礎課題(全学年)

月~金週5日×80分×35週=年間14,000分

≒50日分の授業時間数に匹敵する

【学力と学級規模の関係】

グラス・スミス曲線

◆学級規模が小さくなればなるほど学力は高くなる。
変化が出るのは20人以下の学級からである。

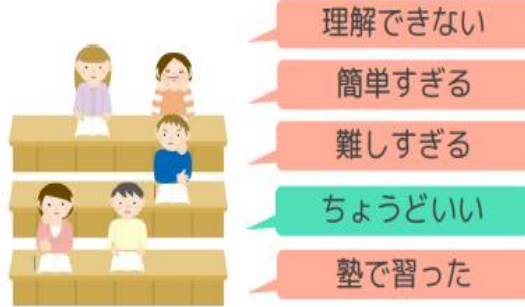
【学力に最も影響するのは何か?】

◆家庭の社会経済的背景(**SES: Socio-Economic Status**: ソシオ・エコノミクスステイタス) 家庭所得、父親学歴、母親学歴の合成指数。**SESは変えられないが、子育ては変えられる。**

**R5年度の学力向上策
全体計画における
具体的な取組
(令和5年度版)**

これからの学習指導はこう進化していく

これまでの学習指導



全員同じ内容・問題数に
取り組んでいる

児童生徒にとって意味のない
学習時間となってしまう
可能性がある

- ①TT指導(量)
- ②少人数指導(量)
- ③授業改善(質)
- ④補充指導(量・質)
- ⑤家庭学習(量・質)等

- ※個別最適化された学習指導の実現に向けた具体策をどう立案し、推進していくか？
- ※アナログとデジタルの学習指導の融合をどう図っていけばよいか？

- ※35人学級の段階的導入(量)
- ※小高学年教科担任制の導入(質)
- ※タブレット端末、デジタルドリル等の活用(量・質)

これからの学習指導

「アダプティブ・ラーニング」=適応学習



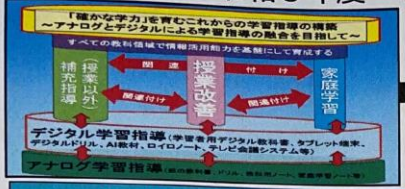
児童生徒それぞれに適切な
内容・問題数に取り組める

一人ひとりに意味のある
学習時間が提供できる

令和5年度 学力向上全体計画(確定版)

令和5年度 学力向上全体構想

鹿児島市立星峯西小学校



【アナログ学習指導とデジタル学習指導の融合】

- 日々の授業実践とその共有
- 実践的な職員研修による指導力の向上
- 学力向上委員会
- 経験則とデータに基づいた学習指導
- 家庭教育力アップ共通実践事項

実態把握・分析・対策、「分かる・できる・考える」授業改善、「基礎的・基本的な知識・技能」の定着、家庭・地域との連携

I 実態把握・分析に基づく具体策の設定と実践 II 「確かな学力」を育成する授業の創造と指導力の向上 III 「基礎的・基本的な知識・技能」の徹底

- 1 各種検査の実施・事後指導**
- 知能検査・学力検査
 - 相関分析・経年比較
 - アシストシートの活用
 - ★SS54
 - ★アンダーアチーバー0
 - 各種テスト
 - 漢字力テスト ★90%
 - 単元末テスト ★85%
 - 学期末テスト ★80%
 - 鹿児島学習定着度調査
 - 対策・分析・補充
 - ★市・県平均
 - 全国学力・学習状況調査
 - 対策・分析・補充
 - ★市・県・全国平均

- 1 授業改善のポイント**
- 目標の明確化と学習課題の工夫
 - 見通しと振り返りの活動の重視
 - 主体的・協働的な学習活動の工夫
(「学びの羅針盤」より)
- 2 分かる授業の徹底**
- 教材分析・研究の徹底
 - 定着の把握と補充指導
 - 反復学習の徹底
 - 教材・教具の工夫
 - 個別最適な学習と協働的な学習の工夫
- 3 星西へフックの推進**
- 学習問題の設定
 - 予想・見通し・解決方法の設定
 - 主体的・対話的で深い学びを表現するための学習活動・形態・場の工夫
 - 教材・教具の工夫
 - 指示・発問の工夫
 - 構造的な板書の工夫
- 4 指導と評価の一体化**
- 評価規準の設定
 - 評価方法の工夫
 - 授業改善
- 5 指導体制・方法の工夫**
- 専門性のある専科指導
 - 少人数(3学級4展開)によるきめ細やかな指導
 - 一人一台端末の活用
 - デジタルドリルの活用
- 6 学業指導の充実**
- 学級経営の充実
 - 受容的な雰囲気
 - 自己有用感
 - 学習のしつけ・環境整備
 - 正しい姿勢(座り方)
 - 言葉のルール(話型)
 - ユニバーサルデザイン

- 1 読む力の育成**
- 言語活動の充実を通じた言葉による見方・考え方を働かせた読みの指導
 - 時間、主語と述語、様子、理由
 - 内容と形式
 - 音読・朗読指導の充実
 - 方法と形態の工夫
 - 場の設定
 - 読書タイム(週2回)
 - 音読放送(低・中・高)
 - うちどく(毎月23日)
 - 読書週間(毎学期)
 - 読書まつり(5月)
 - 学校図書館の活用
 - 年間目標冊数の設定
 - ★低: 100冊
 - ★中: 80冊
 - ★高: 60冊
 - 「読書センター」「学習・情報センター」としての機能の充実
- 2 書く力の育成**
- 漢字・言語事項の指導
 - アナログドリル
 - デジタルドリル
 - 学期末漢字カテスト
 - 家庭学習ノート
 - 漢字・ローマ字・短文づくり・視写
- 3 ベーシックタイム・パワーアップタイムの運用**
- 知識・技能(定義・計算力)の定着・向上
 - 複数体制での指導
 - デジタルドリルを活用した個別最適な学習

- IV 職員研修の充実**
- 1 テーマ研修**
- 研究主題
アナログとデジタルを融合した学習指導を目指して
 - 内容
GIGAスクール構想に基づき、一人一台端末を活用した取組
 - 方法
 - 各実践を集約・共有
 - 研究授業
 - ・ 6月26日(月)
 - ・ 10月16日(月)
 - ・ ワークショップ型による授業研究会
- ※ 場合によっては、初任者研修・ステップアップ研修・パワーアップ研修・調査研究協力員授業などと兼ねることもある。
- 2 一般研修**
- 教科等研修
 - 絵画・作文等
 - その他
 - 生徒指導・保健・人権
 - 同和教育・服務規律・救急救命・不審者対応研修
- 3 個人研修**

- 1 読む力の育成**
- 漢字・言語事項の指導
 - アナログドリル
 - デジタルドリル
 - 学期末漢字カテスト
 - 家庭学習ノート
 - 漢字・ローマ字・短文づくり・視写
- 2 書く力の育成**
- 漢字・言語事項の指導
 - アナログドリル
 - デジタルドリル
 - 学期末漢字カテスト
 - 家庭学習ノート
 - 漢字・ローマ字・短文づくり・視写
- 3 ベーシックタイム・パワーアップタイムの運用**
- 知識・技能(定義・計算力)の定着・向上
 - 複数体制での指導
 - デジタルドリルを活用した個別最適な学習

- V 家庭・地域との連携**
- 1 家庭教育共通実践事項**
- ノーマディアタイム
 - 早寝早起き朝ご飯
- 2 家庭学習の手引き**
- 3 家庭学習ノート**
- 4 学校支援ボランティア**



アナログ学習とデジタル学習の重点の置き方(目安)

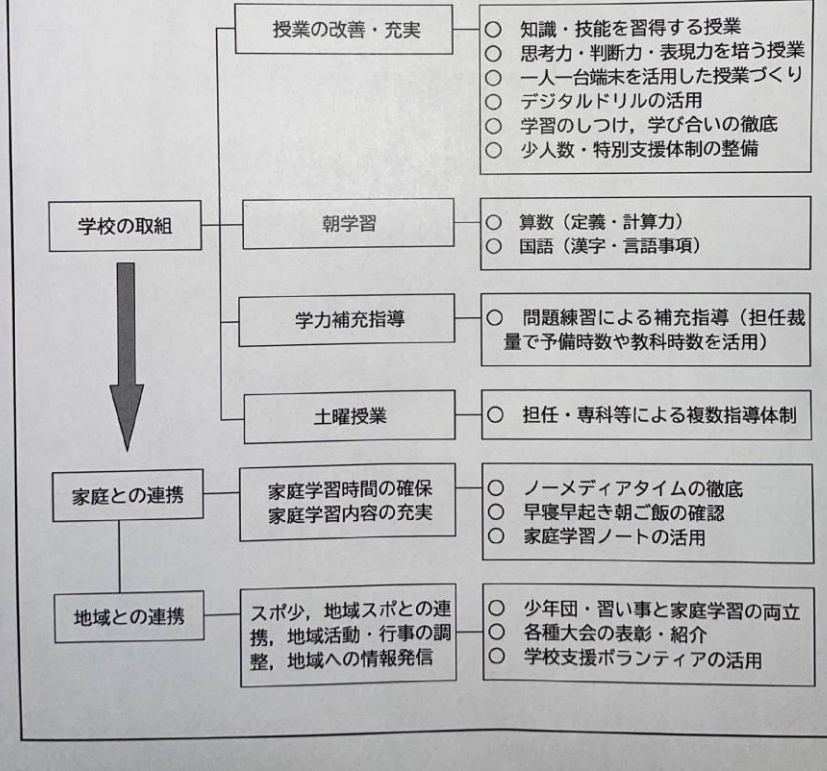
学年	【低学年】 1年生 2年生	【中学年】 3年生 4年生	【高学年】 5年生 6年生
デジタル学習指導	2	4	6
アナログ学習指導	8	6	4

タブレット端末の活用機会・家庭への持ち帰り

学校で慣れ親しむ・使う機会への持ち帰り

学校・家庭で使いこなす機会への持ち帰り

- 教科指導の質と量: 教材分析・研究の時間確保, 指導時間の位置付けと指導方法の工夫
- 全校一体となった組織的な取組: チーム星西としての共通理解と共通実践
- 家庭学習の質と量: 個に応じた家庭学習の手立てと家庭教育力向上の取組



令和5年度 学力向上全体計画(確定版)

学力向上委員会 令和5年度版(最終版) 令和5年3月31日

NRT, 鹿児島学習定着度調査, 全国学力・学習状況調査に向けた具体策

- (1) いっ
- ◆ 正課授業・・・国語(週5時間)担任指導
社会(週2～3時間)担任指導
算数(週5時間)担任指導 *少人数指導(学年運用)
理科(週3時間)専科指導

◆ 朝の学習

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:30	移動					
8:30～8:45 (15)	①全朝	仲よし	チャレ	仲よし	仲よし	仲よし
	②学朝	読書	ンジタ	読書	読書	読書
	③⑤チャ	(20)	イム	(20)	(20)	(20)
	④音朝		(20)			

【改善案】

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:40 (15)	①全校朝会 /学年朝会	ベージ ック	仲よし 読書	ベージ ック	仲よし 読書	朝なし 1校時
	②③仲よし読書	タイム	(15)	タイム	(15)	パワー アップ
	④ハート フル	(15)		(15)		タイム ム(45)

R4～継続 *火・木曜日のベージックタイム→Keep主に漢字、計算、定義等
R4～継続 *土曜日1校時のパワーアップタイム→Output主に問題練習

【効果的な活用方法】
※基礎基本の定着等を図る場合
→アナログを活用した学習
※定着の確認、習熟を図る場合
→デジタルを活用した学習

- ◆ 土曜授業の学力補充指導(第2土曜日:年9回 3時間のうち1時間)
R4～継続 *1校時に全学年で実施+3年生以上でデジタルドリル活用
R5～新設 *全学年で「ナビマ」「タブレットドリル」と組み合わせた活用
- ◆ 長期休業中の希望者への個別の指導
*職員研修一全学級で共通指導(理科教室, 絵画教室, 作文教室など)をして出品する。
R4～継続 *タブレット端末持ち帰り(調べ学習とデジタルドリル) 継続

◎ 家庭、地域との連携(家庭学習の確保と習慣化)
R3～家庭教育力アップ共通実践事項ノーマメディアタイム、早寝早起き朝ごはんの取組によって家庭の教育環境の改善・向上を目指す。
既存: 家庭学習目安時間: 学年×10+20分確保と目標達成率の把握
学校評価Googleフォームによるアンケート集約→学級PTAでの協議、結果データのフィードバック→保護者の理解と協力を得るシステム

ノーマメディアタイムの取組(○中、○小、○小)

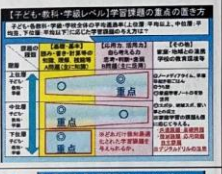
○小・中学校家庭学習の目安時間

○学年×10+30分(体育除く)
1年生40分+20分 2年生50分+10分
3年生60分 4年生70分
5年生80分 6年生90分
※中1:100分 中2:110分 中3:120分

家庭学習60・90(くろくまる・きゆうまる)運動……果P運の取組

具体的内容、イメージ等

- ◆ 小学校専科指導加配(1)・理科専科(4, 5, 6年)
- ◆ 定数専科(2)・音楽専科(3～6年)・R4英語専科(3～6年)
- ※ R5 新設: 算数科少人数指導3,4年(3クラス4展開)+デジタルドリル
- ◆ 学習指導



- ◆ アナログによる学力補充にデジタルを組み合わせた指導体制づくり
- ◆ 各教科で出品するコンクールを絞る。
- ◆ 指導計画と関連付ける。
- ◆ 家庭学習目安時間を確保するための手立て

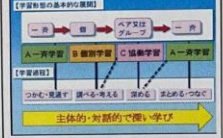
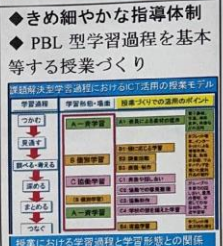


※ R3,7月から家庭教育力アップ共通実践事項として本格的にスタート
・ノーマメディアタイム
・早寝早起き朝ごはん

- (2) 何を ※Web問題, 学習プリント問題 R4.1月～デジタルドリル導入
- 国語(読こと, 書くこと, 読むこと)→過去問題, アシストシート等(漢字, 文法)→これまでに習った漢字, 文法問題
 - 社会(学習の要点まとめ, 自作問題による練習)
 - 算数(テスト結果に基づく個に応じた問題練習, ドリル)
 - 理科(学習の要点まとめ, 自作問題による練習)
 - * 昨年度までの学年定着度問題(12月中旬実施予定)
 - R4～継続: デジタルドリルの有効かつ効果的な活用方法
アナログ学習指導(計算ドリル帳, 漢字ドリル帳)とデジタル学習指導の有効な組合せ方等について実践を通して検証(中学生以上)
 - R5～新規: 低学年におけるデジタルドリルの効果的な活用法の検証

- (3) どのように(指導方法, 分担等)
- 正課授業(国, 社, 算, 理, 英:担任及び専科による指導)
R4～継続: 英語専科新設→ヘッドセット、学習者用デジタル教科書活用
R5～新規: 3, 4年算数科少人数指導+タブレット端末の活用
R5～新規: 算数科以外の教科での反転授業→家庭学習課題
 - 朝学習: ベーシックタイム(担任, 専科などTT体制)
R4～継続: 毎週火曜日 15分×35回=525分
R4～継続: 毎週木曜日 15分×35回=525分 計1050分
○ 土曜日1校時: パワーアップタイム(担任, 専科などTT体制)
R4～継続: 第2土曜日 45分×9回=405分 計405分
*アナログとデジタルを組み合わせた指導方法(例)
○少人数指導, TT指導+デジタルドリル活用の組合せ
○家庭学習ノートの復習→デジタルドリル活用の展開
○テストプリントの復習→デジタルドリル活用の展開
○デジタルドリル問題の自己選択 など

- (4) その他
- R3～○ 学力向上委員会
学期1回から職員会議後に1回に変更
→指導状況とテスト結果報告、家庭学習課題内容等の情報交換
学力検査結果の分析及び今後の対策等の協議、共通理解等
- R3～○ 学校における教育活動, 教育環境, 掲示等の充実
→家庭学習ノートの全学年掲示→模範的な家庭学習ノートを校長室前に常設展示。チーム学校で低中高学年の家庭学習の指導をそろえて取り組んでいることを保護者、地域、来校者等に示す。
※教職員はR5教育課程に家庭学習の模範的例を入れて共通理解する。
保護者へは第1回PTAの際に学級経営方針とともに各学年の家庭学習レベルを説明する。
- 継続○ 学習のしつけ(発表活型, 挙手の仕方, 聞き方, 姿勢など)の徹底
授業の基盤となる学習のしつけを学期始めに徹底する週間を設定
- 継続◎ 家庭学習ノートの様式の見直し※煩雑にならず使い勝手が良いもの
→今年度の学力の実態に基づき、定着率の低い知識・理解事項については、年間を通じて積み上げられるような様式に見直す。
(例)ローマ字が書けない→毎日ローマ字を書くための野線枠を追加
→系統性を踏まえた様式に見直す。
(例)保護者の見届け枠, 使った漢字数, 友だちのよさを書く枠
ノーマメディアタイム、早寝早起き朝ごはん等の振り返り枠



◆ きめ細やかな指導体制

- ◆ PBL型学習過程を基本とする授業づくり

※教職員はR5教育課程に家庭学習の模範的例を入れて共通理解する。
保護者へは第1回PTAの際に学級経営方針とともに各学年の家庭学習レベルを説明する。

継続○ 学習のしつけ(発表活型, 挙手の仕方, 聞き方, 姿勢など)の徹底
授業の基盤となる学習のしつけを学期始めに徹底する週間を設定

継続◎ 家庭学習ノートの様式の見直し※煩雑にならず使い勝手が良いもの
→今年度の学力の実態に基づき、定着率の低い知識・理解事項については、年間を通じて積み上げられるような様式に見直す。
(例)ローマ字が書けない→毎日ローマ字を書くための野線枠を追加
→系統性を踏まえた様式に見直す。
(例)保護者の見届け枠, 使った漢字数, 友だちのよさを書く枠
ノーマメディアタイム、早寝早起き朝ごはん等の振り返り枠

終

【参考資料】

- ◆授業改善の具体策
- ◆補充指導の具体策
- ◆家庭学習の具体策

◆学力向上【授業改善】

※主体的・対話的で深い学びを実現する授業

※アナログとデジタルによる学習指導の融合

- ① 各学年期(低・中・高)におけるタブレット端末を
活用できる学習活動はどのようなものがある？

※タブレット端末がもつ教育機能を生かす

- ② **課題解決学習**の基本的な学習過程に応じた
ロイロノート、デジタルドリル等の有効な活用法

【学習過程】つかむ→見通す→調べる・考える→深める→まとめる→つなぐ

- ③ 各教科・領域の学習場面におけるロイロノート、
デジタルドリル等の有効な活用法

【学習場面】一斉学習、個別学習、協働学習

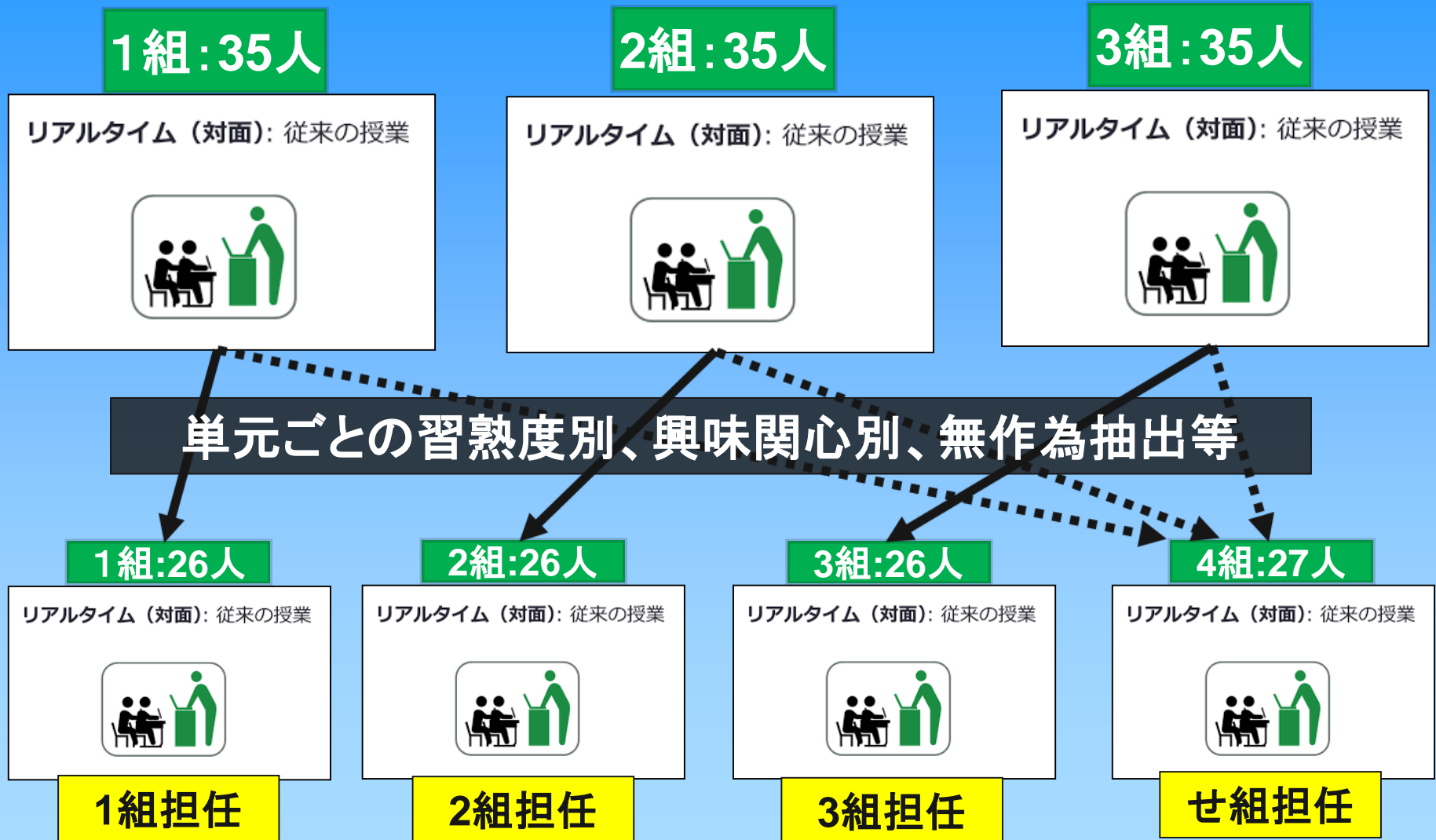
◆研究

【授業改善】タブレット端末を 活用した実践イメージ

- ① **課題解決の学習過程**に沿ってアナログ（教科ノート、ワークシート等）とデジタル（ロイロノート、デジタルドリル）をどう組み合わせさせて個別学習、協働学習、一斉学習を展開すれば効果的か？
- ② **授業終末部**での適用問題をデジタルドリルで補う方法の検証（どのような単元で活用するのが有効なのか？）
- ③ **算数科少人数指導＋デジタルドリル**の効果

3クラス4展開の算数科少人数指導の実践イメージ

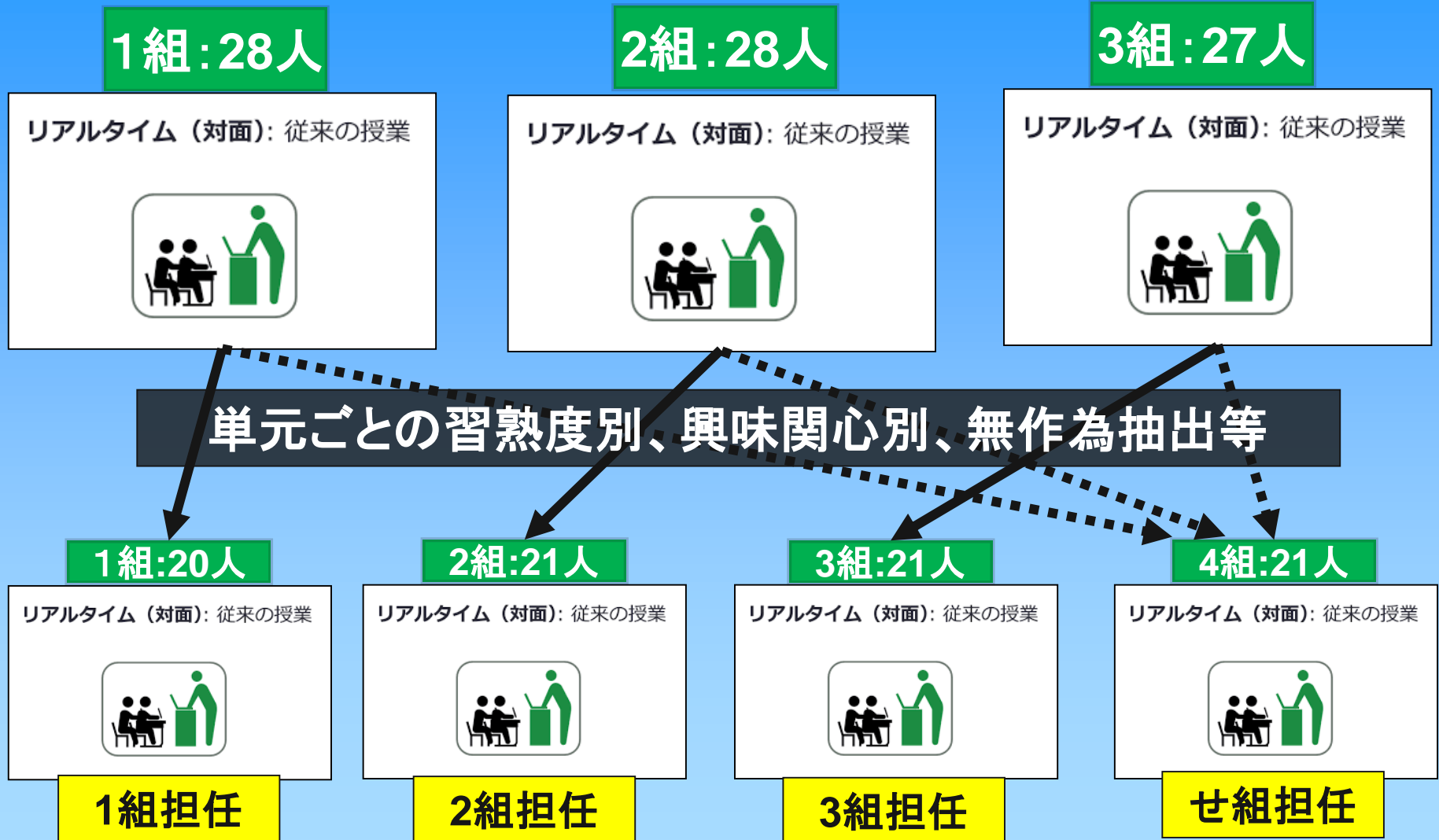
4年生算数科少人数指導(3クラス4展開)(R5~)



※3クラス4展開少人数指導+タブレット端末活用(デジタルドリル等)

3クラス4展開の算数科少人数指導の実践イメージ

3年生算数科少人数指導(3クラス4展開)(R5~)



※3クラス4展開少人数指導+タブレット端末活用(デジタルドリル等)

◆学力向上

【補充指導】

(質・量の向上策)

※基礎学力(漢字の読み書き・計算等)の確実な定着に重点を置いた取組

※アナログとデジタルによる学習指導の融合

- ① 毎週火・木(15分)のベーシックタイム
- ② 毎月第2土曜日(45分)のチャレンジタイム

【学習目的別の活用法】

→課題プリントとデジタルドリルの組み合わせ方

◆研究

【補充指導】の実践イメージ

①朝学習：ベーシックタイム(15分)におけるデジタルドリルの活用法

②土曜授業：チャレンジタイム(45分)におけるデジタルドリルの活用法

※そもそも補充指導の目的は何か？

「基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むこと」

=全員に出す「共通課題」と本人の意欲や学習状況に応じて進める「自主課題」から構成される。

※アナログ(プリント等)学習とデジタル(デジタルドリル)学習の比重は？

※学年の発達段階で使い分けた方がベターか？

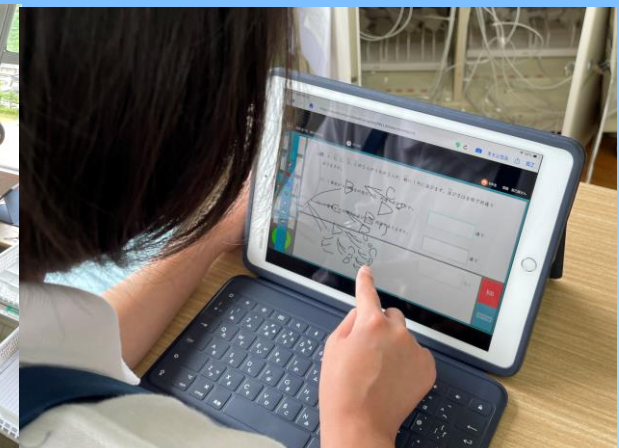
※定着場面、問題練習場面で使い分け方があるのか？

指導体制面での工夫・改善(補充指導)



【改善】朝学習のベーシックタイム(火曜日、水曜日毎週 15分)

15分×35回×2曜日=1050分/年(漢字の読み書き・計算問題等の定着)



【新設】土曜授業日のチャレンジタイム(毎月1回1校時 45分)

45分×10回=450分/年(漢字の読み書き・計算問題等の定着確認や習熟を図る)

土曜授業の学力補充指導での複数体制、少人数による指導

デジタルドリルの活用法(例)

小単元(3単位時間)での組み合わせ方

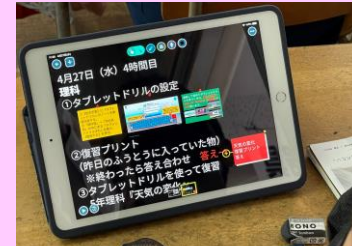
1時間目 2時間目

【実験・観察等の授業】

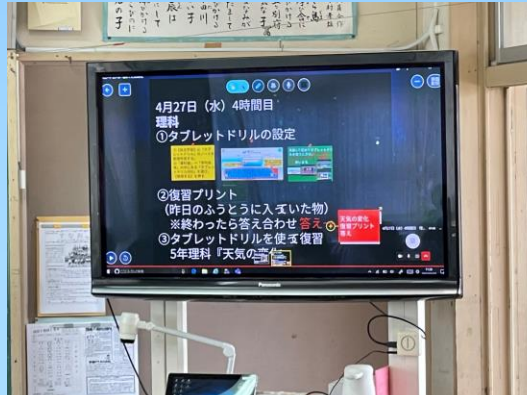


3時間目

【タブレットドリルの活用】



3単位時間の最後の時間に学習内容の定着を目的に活用する



タブレット端末・デジタルドリルの活用法(例)

授業と家庭学習と補充指導での組み合わせ方

授業

【漢字指導】



家庭学習

【家庭学習ノート】

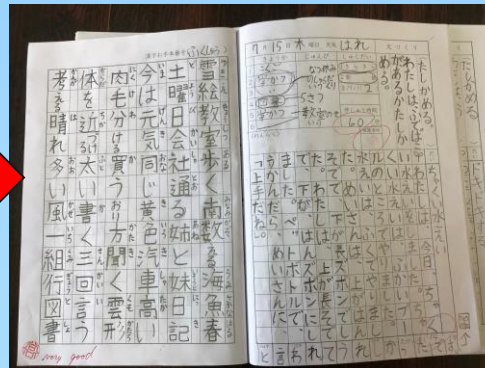


朝学習

【確かめテスト】



授業や補充指導の時間でのタブレット端末の活用の可能性を検討



**朝学習での
補充指導
(ベーシックタイム)**

【朝学習】5年生デジタルドリルを活用した 学力補充指導

2022年02月09日



2月9日(水)朝の時間は学力補充指導の時間です。5年3組では「デジタルドリル」を活用して学力補充指導が行われていました。現在、学校では「デジタルドリル」を試行的に活用する取組をしています。アナログ式(課題プリント等)ドリルとデジタルドリルのそれぞれの良さを活かしながら、どのようにアナログによる学習指導とデジタルによる学習指導を融合させていくかについて研究しています。

【朝学習】毎週火・木の朝は「ベーシックタイム」 に取り組んでいます 2022年04月19日



4月19日(火)朝8:25~8:40(15分間)は「ベーシックタイム」に取り組んでいます。この「ベーシックタイム」は学習の基礎・基本である漢字の読み書きや計算力などを子どもたちにしっかりと定着するための取組で毎週火、木の朝15分間すべての学級で行っています。

また、毎月第2土曜日は「パワーアップタイム」という45分間の時間を使って問題練習に取り組んでいます。学級によっては複数の教員が入ってきめ細やかな指導をして関わられるようにしています。この取組も全学級で行っています。

学校は、授業改善はもちろんのこと、これらの補充指導や家庭学習と関連付けながらチーム星峯西小として取り組んでいます。

【朝学習】デジタルドリルを活用した「ベーシックタイム」の様子

2022年06月02日



【補充指導でのプリント課題とデジタルドリルの活用方法について】

○基礎基本の定着を図る際には、アナログの漢字帳や計算ドリルのプリントを活用した方が効果的

○学力が定着しているかの確認・見届けやさらなる習熟を図る際にはデジタルドリルを活用することが望ましい。

○指導者が補充指導の目的が何か？を明確にして活用できるようになることが重要
よって、朝学習ベーシックタイム(15分)でも土曜授業のパワーアップタイム(45分)でも補充指導の目的が定着の確認や習熟を図ることであればどちらでもデジタルドリルは使用可能ということになります。

**土曜授業での
補充指導
(パワーアップタイム)**

【土曜授業の補充指導】1時間目に2～6年生の全学級で「パワーアップタイム」

2022年04月09日

令和4年度(最新版) 令和4年2月2日

第5回学力向上委員会 専任・補充指導者等派遣計画 全国学力・学習状況調査に向けた実施案 (1) いつ

◆ 正課授業・・・国語(週5時間) 担任指導
社会(週2～3時間) 担任指導
音楽(週2時間) 担任指導 ※本人指導等(学級担任)
理科(週2時間) 専任指導

◆ 課の学習

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:50	移動					
8:50～8:45 (15)	①全額 ②半額 ③半額	特設し 読書 (120)	特設し 読書 (120)	特設し 読書 (120)	特設し 読書 (120)	特設し 読書 (120)

【出欠者】

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:40 (15)	正課授業 学習指導 自由時間	ベーン ック タイム (15)	特設し 読書 (15)	ベーン ック タイム (15)	特設し 読書 (15)	特設し 読書 (15)

※～前席・次・高座席のベーンタイム～Keepに漢字、計算、読書等
※後・土曜日のチャレンジタイム～Keepに漢字練習

◆ 学力補充指導の時間

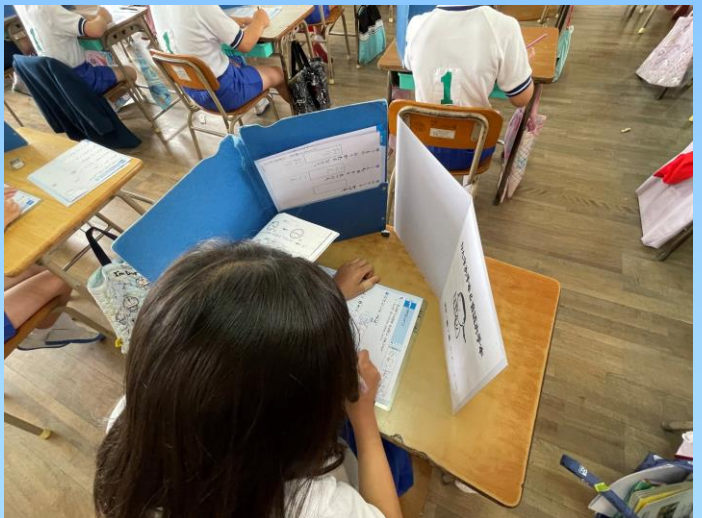


学級によっては特別支援学級の担任や専科の先生方も入っていただいてTT(ティームティーチング)の指導体制を組んで行っています。今回は、タブレット端末の更新、入替作業が準備段階でしたので、プリントによる課題で対応しましたが、今後はタブレット端末の準備が完了し次第、デジタルドリルを活用した取組も加えて進めていきます。



【土曜授業の補充指導】パワーアップタイムの取組 2年生（課題プリントによる補充指導＋TT指導）

2022年05月14日



5月14日（土）の1校時に2年では今年度2回目のパワーアップタイムが行われました。漢字の読み書きの定着や算数では間違いやすい単元（時間と時刻）の問題練習に課題プリントを使って取り組ませました。

【土曜授業の補充指導】パワーアップタイムの取組 3年生(デジタルドリル設定と使い方のオリエンテーション)

2022年05月14日



5月13日(金)2校時に3年2組では今年度から新しく導入したデジタルドリル:教材名「タブレットドリル」の設定作業をしていました。子どもの学習状況や進捗状況を容易に把握でき、補充的・発展的な学習を行う場面で、個別の学習支援を行いやすくてできる教材です。また、子ども自身がスムーズに解けた得意な問題やつまずきのあった苦手な問題を把握し、学習の改善につなげる活用も期待できます。

【土曜授業の補充指導】「パワーアップタイム」の取組

4年生算数科少人数指導

2022年05月14日



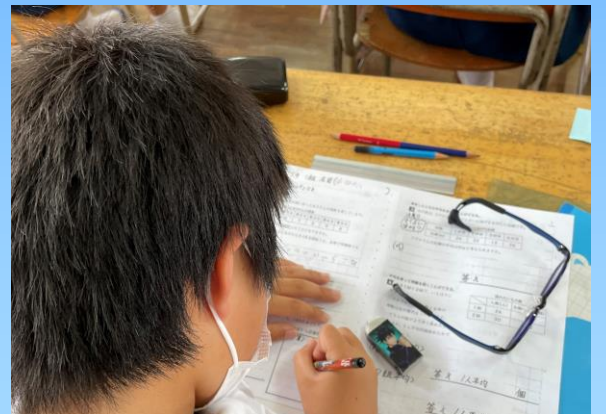
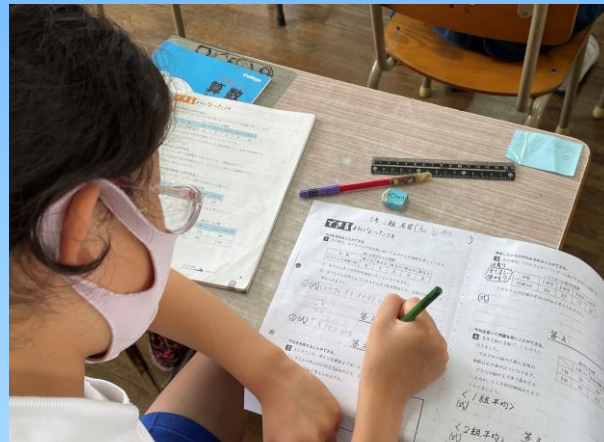
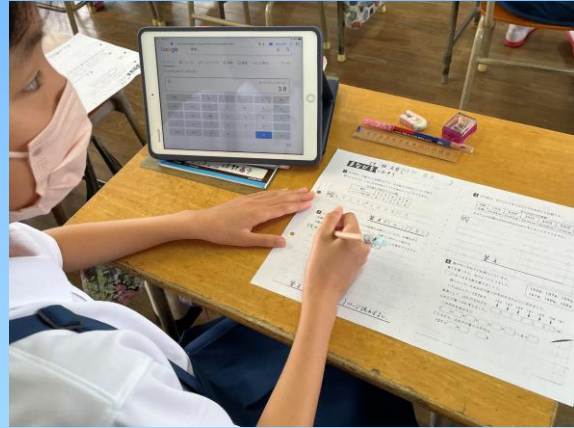
5月14日(土)1校時に4年1組では、算数科の少人数指導が行われました。少人数による指導により、きめ細やかな指導を行うことができます。今後は、この少人数指導に今年度から新しく導入したデジタルドリル:教材名「タブレットドリル」を組み合わせた更にきめ細やかな学習指導が行えるようにしていこうと考えています。

子どもの学習状況や進捗状況を容易に把握でき、補充的・発展的な学習を行う場面で、個別の学習支援を行いやすくなる教材です。また、子ども自身がスムーズに解けた得意な問題やつまずきのあった苦手な問題を把握し、学習の改善につなげる活用も期待できます。

少人数指導＋デジタルドリルの組み合わせを検討

【土曜授業日の補充指導】パワーアップタイムの取組 5年生(課題プリント+タブレット端末活用)

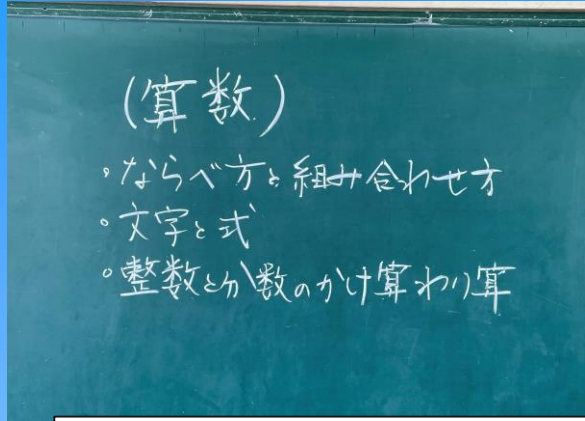
2022年05月14日



5月14日(土)の1校時に5年生では従来の課題プリント(定着の思わしくなかった単元)を使って補充指導を行いました。タブレット端末に内蔵された計算機能を活用して日常的に使用しています。

【土曜授業日の補充指導】パワーアップタイムの取組

6の2(デジタルドリル活用+TT指導) 2022年05月14日

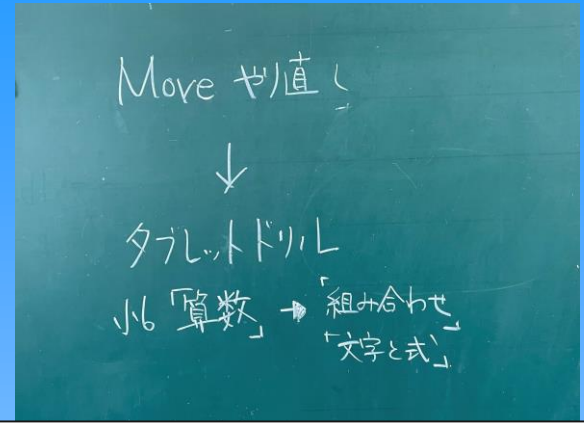
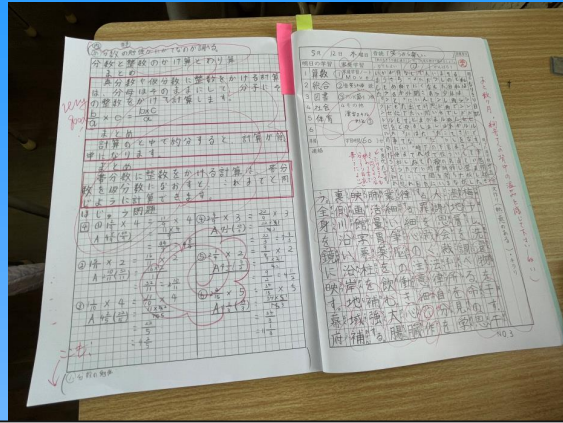
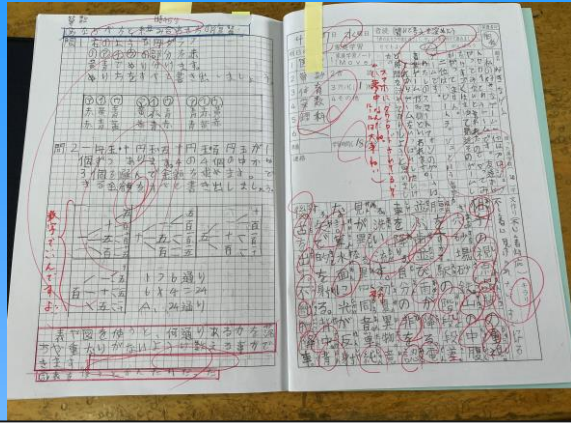


【デジタルドリル】定着の確認・習熟→1単元3段階(10分×3段階)の使い方



5月14日(土)の1校時に6年2組では、算数科でタブレットドリルで取り組む単元を子どもたち自身に選択させてデジタルドリルに取り組むパターンを試しています。自分の苦手なところにチャレンジできる取組です。2人の教師がTTで個別指導にも取り組んでいます。

【土曜授業日の補充指導】パワーアップタイムの取組 6の3(家庭学習ノート→デジタルドリル) 2022年05月14日



【家庭学習ノート】基礎基本の定着・習慣化→【デジタルドリル】定着の確認・習熟



5月14日(土)の1校時に6年3組では、家庭学習ノートを返却した後にデジタルドリルを活用した補充指導を行いました。教師による家庭学習ノートへのきめ細やかな添削指導・やり直しを行った上でデジタルドリルに進む流れ・パターンを確立しようとしています。

◆学力向上

【家庭学習】(質・量の向上策)

※共通課題(漢字・単語・日記・計算等)

の確実な定着に重点を置いた取組

- ① 自校オリジナルの家庭学習ノートの活用
- ② 家庭学習課題(量と質)の与え方
- ③ 確実な見届け(担任・保護者)
- ④ 家庭学習時間の把握(諸検査等)

※自主課題として

- ⑤ デジタルドリルを併用する可能性を探る

※教師の調べる業務の負担を軽減する方法

◆研究

【家庭学習】の実践イメージ

①**基礎・基本の定着**：家庭学習ノートとデジタルドリルを組み合わせた漢字、計算指導等 ※平常時

②**実技教科での活用**：タブレット端末活用による家庭学習課題（歌、リコーダー練習、調理、工作、運動などの実技等）の与え方 ※コロナ対応時

③**反転授業**：タブレット端末の持ち帰りによる家庭での予習からの授業（反転授業） ※コロナ対応時

※そもそも家庭学習の目的は何か？

「**基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むとともに、学習習慣を確立させること**」=全員に出す「**共通課題**」の宿題と本人の意欲や学習状況に応じて進める「**自主学習**」から構成される。

【家庭学習】R4年度版の新しい「家庭学習ノート」が出来上がりました

2022年04月22日



前年度の学力向上委員会で3月末まで議論して全教員の意見を反映させて完成させたものです。ノートサイズは全てA4版に統一。様式は系統性を考慮して文字数、枠組等を調整。特に4年生用にはローマ字の罫線を入れて毎日アルファベットを書けるようにしています。

全ての学年・学級、全ての児童が使用する家庭学習ノートです。漢字、日記、宅習の3点セットをこの1冊に集約してあります。この家庭学習ノートを活用して共通課題として基礎基本の定着を図りながら、今後はデジタルドリルと組み合わせた自主課題にも取り組ませようと考えています。

自校オリジナルの家庭学習ノート活用の活用と掲示



家庭学習における家庭学習ノートとデジタルドリルとのより良い組合せ、併用の仕方を実践検証する。



2022年度実践

【家庭学習編】家庭学習ノート

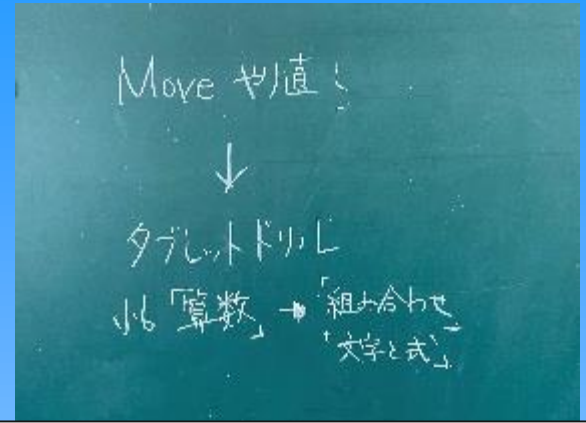
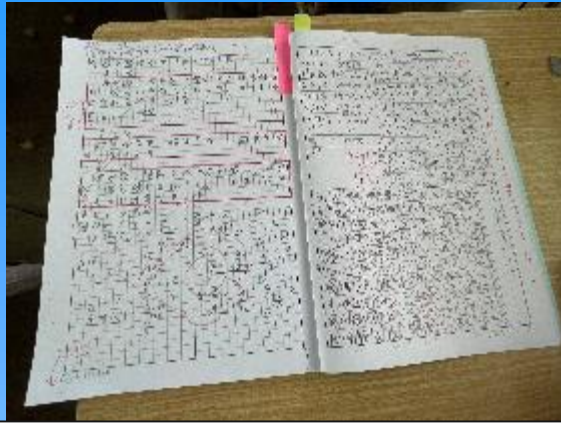
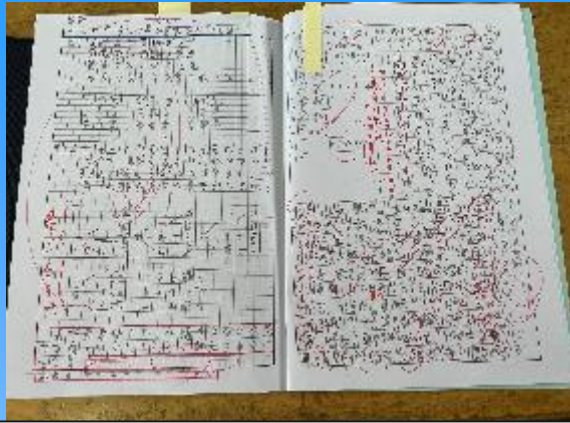
→学校での補充指導

(デジタルドリル)へ繋ぐ

アナログとデジタルを組み合わせた活用法

【家庭学習から学校での補充指導へ】

6の3(家庭学習ノート→デジタルドリル) 2022年05月14日



【家庭学習ノート】基礎基本の定着・習慣化→【デジタルドリル】定着の確認・習熟



5月14日(土)の1校時に6年3組では、家庭学習ノートを返却した後にデジタルドリルを活用した補充指導を行いました。教師による家庭学習ノートへのきめ細やかな添削指導・やり直しを行った上でデジタルドリルに進む流れ・パターンの効果を検証しています。

※家庭学習ノートで基礎基本の定着→学校での補充指導：デジタルドリルで定着の確認、習熟を図る展開・流れ

2022年度実践

【家庭学習編】調べ学習

夏休み期間中の

タブレット端末の持ち帰り

7/19~8/19(1か月)5, 6年生対象(226名)
(調べ学習及びデジタルドリル等での活用)

【夏休みの家庭学習】5, 6年生でのタブレット端末の持ち帰り 自由研究の調べ学習や課題プリントをデジタルで代用します

2022年07月19日

【アナログ】昨年度の夏休みの課題帳全50p



【デジタル】タブレット端末の持ち帰り調べ学習、作品制作等に活用

タブレット端末持ち帰りのメリット

【児童生徒側】

- ①自由研究などの取材、資料作成などが可能
- ②様々な調べ活動が可能
- ③取り組んだ問題の解答、解説をその場でできる。
- ④夏休み期間も操作スキルが向上 など

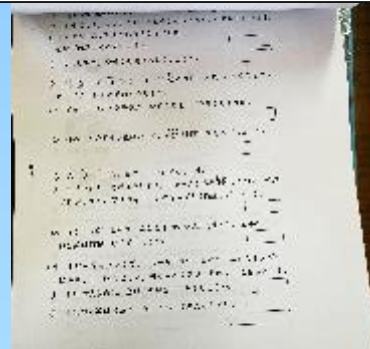
【教師側】

- ①プリント作成の業務削減
- ②紙の削減、印刷、丁合の業務削減
- ③進捗状況をタブレット端末内での把握が可能
- ④夏休みの課題処理の採点業務の削減 など

→日常的な持ち帰りに繋げるために実践データを収集する

【アナログ】国算社理の課題プリント20p

【デジタル】デジタルドリルで代用



ペーパーレス化、個別学習での活用

2022年度実践

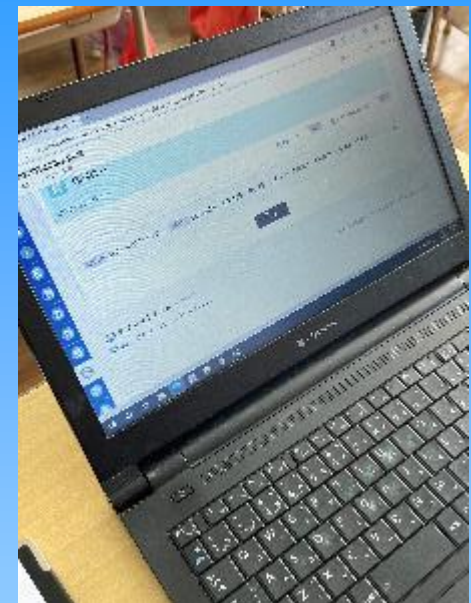
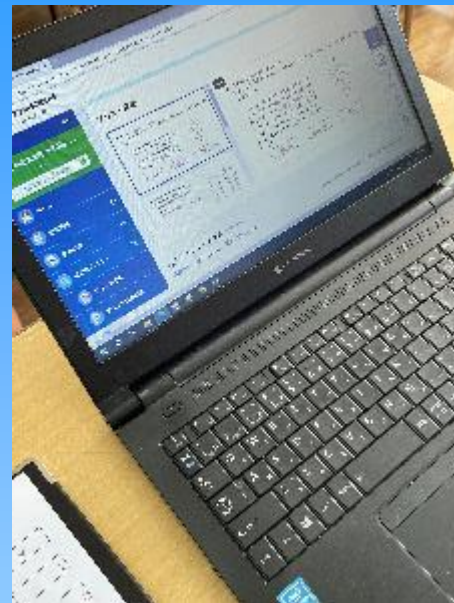
【家庭学習編】

**タブレット端末の持ち帰り
による家庭学習**

(デジタルドリル課題)

◆10月3日(月)6年生の家庭学習

【家庭学習】 6年生の宿題はデジタルドリル 『ナビマ』と『タブレットドリル』 2022年10月03日



10月3日(月)今週の6年生の宿題は、タブレット端末を持ち帰ってデジタルドリルの『ナビマ』『タブレットドリル』で行います。5, 6年生は夏休みに1か月間タブレット端末を持ち帰り、調べ学習やデジタルドリルに取り組みましたが、今週は家庭学習ノートやプリントではなく、デジタルドリルで家庭学習を行うことにしました。

この取組が上手いけば、日常的なタブレット端末の持ち帰りが可能となります。宿題がアナログの家庭学習ノートや課題プリントだけでなく、デジタルドリルという選択肢も加わることとなります。

2022年度実践

【家庭学習編】反転学習

タブレット端末の持ち帰り
による家庭学習→授業へ

(ロイロノートで課題を提出)

◆9月20日(火)5の2家庭学習

ICTを活用した反転授業における授業モデル構想(案)

9/21(水)5年2組
算数科研究授業
反転授業を具現化
化する。

(B 個別学習)

B4: 家庭学習

タブレット端末の持ち帰り

【家庭学習課題】2と3と4の公倍数の求め方を考えて、ノートに書く。タブレットカメラで撮り、提出箱に提出する。

学習過程

つかむ

見通す

調べる・考える

深める

まとめる

つなぐ

A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

(B 個別学習)

A 一斉学習

C1: 発表や話し合い

C2: 協働での意見整理

C3: 協働制作

C4: 学校の壁を越えた学習

B4: 家庭学習

※前時終末部で
次時の学習課題
を設定する。

家庭学習(宿題)
で課題を解く。

※本時

の整理、分
担しての作
品制作、交
流学習等

タブレット端
末の持ち帰り

5 前時の終末

主な学習活動

課題 2と3と4の公倍数を求めよう。

めあて 3つの数の公倍数はどのように求めればいいのか。

6 本時の予習(自宅学習)

予想される見解

- 3つの数字の倍数を書き出して、丸で囲んで見
- 数直線を使う方法。
- 1つの数の倍数書き出し、残り2つの数の倍数をさがしていく方法。
- 2つの数ずつ最小公倍数と公倍数を考えていく方法。
- 3つの数の最小公倍数を求め、その最小公倍数の倍数で求めていく方法。

5年2組 算数科「倍数と約数」前時終末～家庭学習の流れ

前時終末時に次の学習課題を設定

自分なりの方法で家庭学習課題を解く

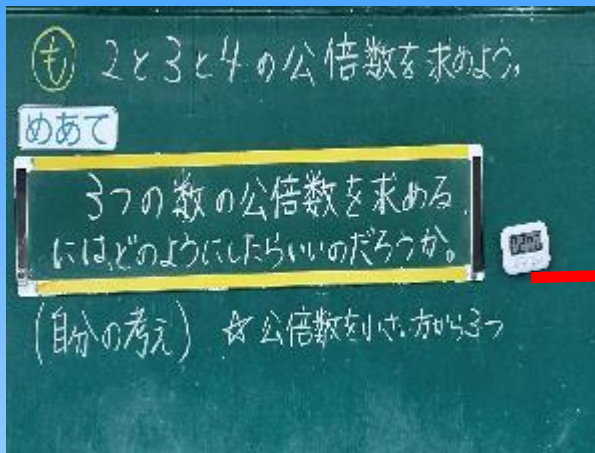
つかむ

見通す

調べる・考える

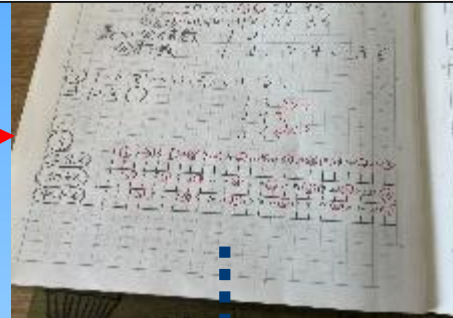
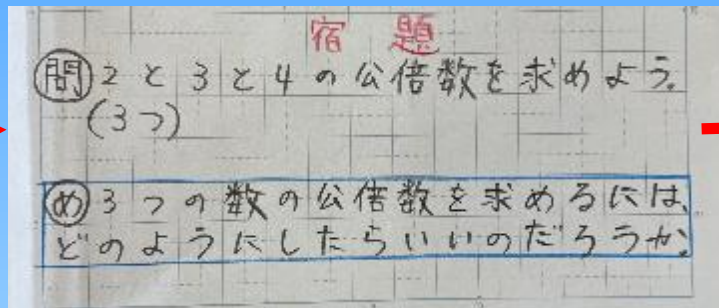
A1: 教員による教材の提示

B1: 個に応じる学習



自分の考えをノートに書きまとめる→写真に撮る→提出箱に提出

先生のタブレット端末へ写真を送信する



◆つかむ→見通す→考える で活用

【前時終末】

前時の終末で、次時の学習問題、めあて設定をする。解決方法を見通す。

【家庭学習】

家庭で自分の考えを算数シートに書く。算数ノートをタブレット端末カメラで写真に撮り、教師用タブレット端末に送信する。教師用タブレット端末に集約された子どもの考えを基に授業プランを練る。

子どもたちの考えをロイロで集約する



5年2組 算数科「倍数と約数」反転授業 本時

自分の求め方をグループ内の友達に説明→全体にも説明

デジタルドリルの活用

深める

まとめる

(適用学習)

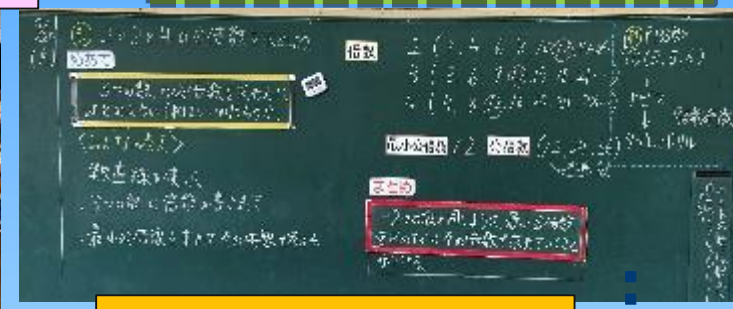
グループ内で個の考えを共有し、グループとしての考えをまとめる。→学級全体で共有して深める

本時の学習を振り返りながらまとめる

C2: 協働での意見整理

C1: 発表や話し合い

A2: 一斉学習でのまとめ



◆深める→まとめる→適用問題 で活用

まず、グループ内の一人一人の考えをタブレット端末を使って説明し合う。

次にグループでまとめた考えを大型モニターに映し出して学級全体で発表し確認する。

最後に本時で学習した3つの倍数のある問題をデジタルドリル等を活用して解かせる。採点はデジタルドリルが行い、その達成状況は自動集計され記録・保存できる。

B1: 個に応じる学習

デジタルドリルで適用問題に取り組む
(教科書問題→ナビマ→タブレットドリル)



2022年度実践

【家庭学習編】調べ学習

冬休み期間中の

タブレット端末の持ち帰り

12/24~1/9(17日間)4年生以上対象(337名)

(調べ学習及びデジタルドリル等での活用)

【冬休みの家庭学習】4年生以上のタブレット端末の持ち帰り 自由研究の調べ学習や課題プリントをデジタルで代用します

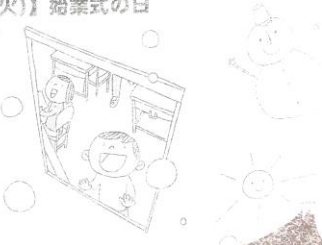
2022年12月24日

令和4年度

楽しい冬休み!!

課題帳を持ってくる日は【令和5年1月10日（火）】始業式の日

学習面の目標	生活面の目標
ふりかえって(反省)	ふりかえって(反省)



☆冬休みの学習について☆ 聖華西小学校4年生

楽しい行事がもりもりたくさん冬休みがやってきました。17日間の休みです。計画的に学習をすませましょう。年末年始の家のお手伝いも、がんばりましょう。下の表をよく見て、取り組みましょう。そして、元気に3学期をむかえましょう。

<p>☆ 必ずすること</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しい冬休み（黄色の課題帳） 生活表（音読・読書もする。） 書き初め「出発」をして、清書を1枚提出する。 国語漢字のふく習（3まい） なわとびカードを使って、体力づくりをする。 伊藤園「お〜いお茶」俳句づくり 	<p>☆他にもチャレンジしてみましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語 <ul style="list-style-type: none"> コンクールに出す作品をつくる。 漢字練習、教科書の習熟をする。 算数 <ul style="list-style-type: none"> 教科書の習熟、プリントやテストの問題をもう一回、といてみる。 音楽 <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの練習をする。 図工 <ul style="list-style-type: none"> コンクールに出す作品をつくる。 体いく <ul style="list-style-type: none"> なわとびやジョギングをする。 ラジオ体操を続ける。
---	--

☆ 1月10日（火）始業式に持ってこよう ☆

口のひびくすがた（印かん、保護者確認）

楽しい冬休み（黄色の課題帳） □ 家でばこ

口校通カード □ 口ばさき □ 口休みの作品

口プリント入れ □ 口習の本 □ ハンカチ・ちり紙

口ぞうきん1枚（各学級ごとで）

口のり・はさみ・色えんぴつ・なわとび・リコーダーなど

10日（火）の日程
8:15〜 健康観察
8:35〜 始業式

【デジタル】調べ学習等に活用

【アナログ】国算社理の課題プリント

【デジタル】デジタルドリルで代用

タブレット端末持ち帰りのメリット

【児童生徒側】

- ①自由研究などの取材、資料作成などが可能
- ②様々な調べ活動が可能
- ③取り組んだ問題の解答、解説をその場でできる。
- ④休み期間も操作スキルが向上 など

【教師側】

- ①プリント作成の業務削減
- ②紙の削減、印刷、丁合の業務削減
- ③進捗状況をタブレット端末内での把握が可能
- ④課題処理の採点業務の削減 など

→宿題は紙プリントやノートで出すという考え方を変える

※ 思い出を、文にしましょう。絵や写真なども入れてもいいです。ていねいに書いて、色もぬりましょう。

○タブレットで、ナビマの練習問題をする。
→ナビマを開いて、左下の宿題のところをあけます！

算数…8.がい数～15.小数のかけ算とわり算 まで
(できるようになったこと、まなびを生かそうの問題だけ)

社会…2.水はどこから 4.ごみのしょ理と利用
5.下水のしょ理と利用 6.地震からくらしを守る
7.風水害・火山災害からくらしを守る の問題

理科…7. 夏の星～14.物の体積と温度 まで

ペーパーレス化、個別学習での活用

終

「確かな学力」: 知育: 校訓かしこく

すべての教科領域で情報活用能力を基盤にして育成する

補充指導
(授業以外)

※全教科領域を研究対象にして全学年で実践する。手立ての有効性を検証し、体系的にまとめていく。

関連

授業改善

付け

家庭学習

※矢印部分も研究対象となる。授業づくりを中心として学年、発達段階、教科、領域、教材等で違いがあるのかを実践検証していく。

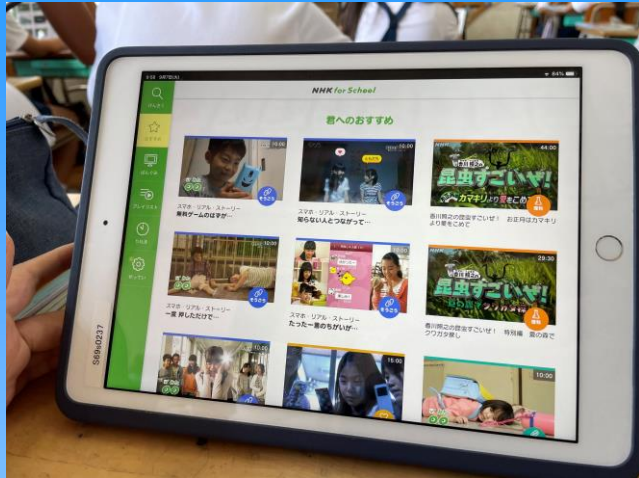
関連付け

関連付け

デジタル学習指導 (学習者用デジタル教科書、タブレット端末、デジタルドリル、AI教材、ロイロノート、テレビ会議システム等)

アナログ学習指導 (紙の教科書、ドリル、教科用ノート、家庭学習ノート等)

タブレット端末の教育機能を理解した上で授業に活用する



【ノートのもつ教育機能】

①練習ノート機能

漢字学習、意味調べ、語彙や語法など深い学びを支えるための基礎的な学習をするための活用

②学習(研究)ノート機能

自分の考えに友達の考えが加わって学びが再構築される、学習の軌跡が蓄積される

【タブレット端末のもつ教育機能】

①可視化機能・・・見える化できる

②個別化機能・・・個別学習ができる

③共有化機能・・・学び合いも可能

④深化機能・・・学んだことを深められる

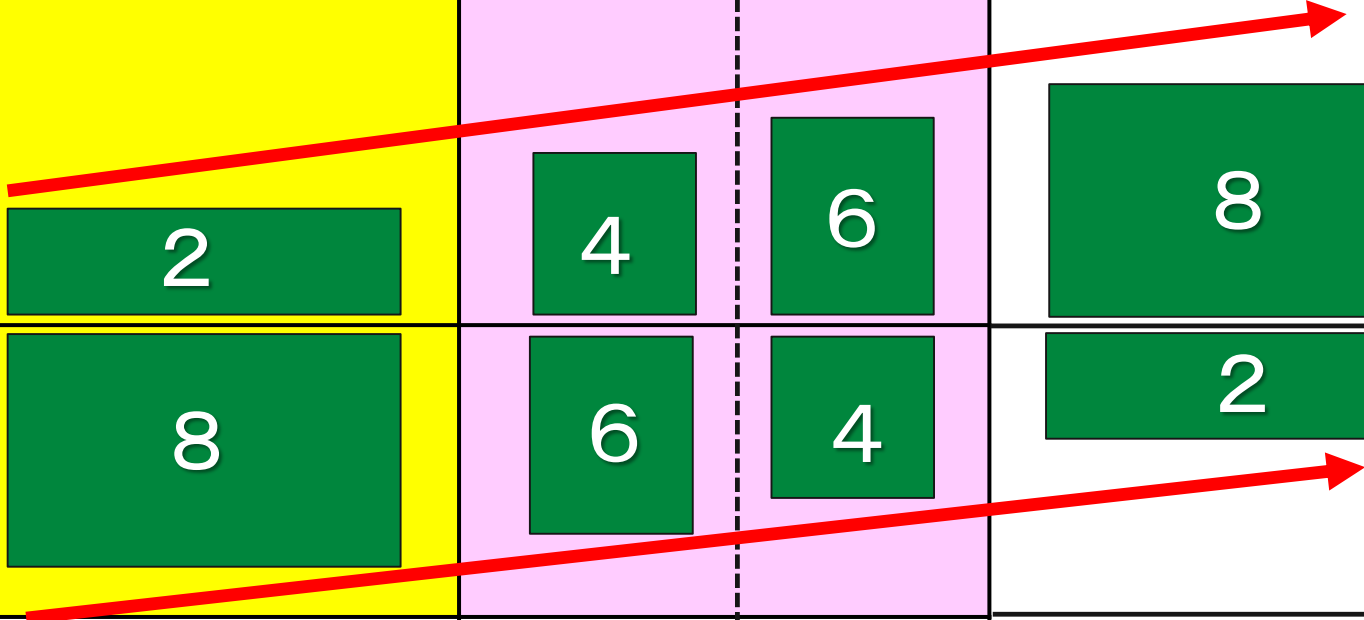
⑤活性化機能・・・学びを活性化できる

「GIGAスクール構想対応 実践事例でわかる！タブレット活用授業」(早稲田大学教職大学院 教授 田中博之著/学陽書房)から引用

タブレット端末にはノートが持つ機能も備わっており、今後その有効性を検証する。特に学習の蓄積・保存、振り返り、評価などの視点で吟味検討する。

アナログ学習とデジタル学習の配分の置き方(目安)

アナログとデジタルのバランス(目安)	【低学年】 1年生 2年生	【中学年】 3年生 4年生	【高学年】 5年生 6年生	
デジタル学習指導	2	4	6	8
アナログ学習指導	8	6	4	2
タブレット端末の活用程度 ・ 家庭への持ち帰り	学校で慣れ 親しみ・使う 家庭への持ち帰り不可		学校・家庭で 使いこなす 家庭への持ち帰り可	



効果的で有効な取組事例

①学力向上委員会での情報共有、課題共有、組織的な実践→進捗状況の把握 **データ分析**

②授業、補充指導、指導体制の整備と充実
(TT指導,少人数指導等、専科指導) **デジタルの活用**

③家庭学習ノートを活用した基礎学力の定着→
家庭学習の質と量の確保 **デジタルの活用**

④家庭教育力アップ共通実践事項(ノーメディア
タイム等)の実践化 **デジタルの活用**

⑤スポ少・部活動と家庭学習の両立策

質の高い授業とは

キーワード

「課題解決学習」

質の高い授業の創造

課題解決学習

問題解決学習と系統学習を止揚する
立場として開発された教授・学習方法

問題解決学習

児童生徒が当面している
問題に対して経験や
知識を再構成し子どもの自主的、
創造的、批判的な思考能力を
高めようとする学習方法

系統学習

基礎的、科学的知識の
系統的な学習を
重視する教授、学習方法

授業：学習場面に応じたICT活用事例（文科省資料）

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子どもたちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1：教員による教材の提示

A2：教員と子ども全員によるまとめ

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1：個に応じる学習

B2：調査活動

B3：表現・制作

B4：家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子ども同士による意見交換、発表などお互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1：発表や話し合い

C2：協働での意見整理

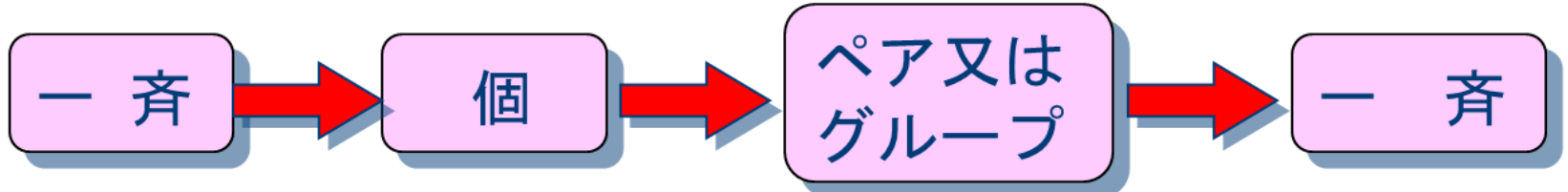
C3：協働制作

C4：学校の壁を越えた学習

- ① デジタルドリルを活用する際は、その内容や使用場면을十分検討する（授業の一部、自宅等での学習等）
- ② 子供たちの学習状況を把握し、個別の学習支援につなげるとともに、子供が自ら学習の改善につなげられるようにする

授業における学習過程と学習形態との関係

【学習形態の基本的な展開】



A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

A 一斉学習

【学習過程】

つかむ・見通す

調べる・考える

深める

まとめる・つなぐ

主体的・対話的で深い学び

基本的な学習過程におけるICTを活用できる場面

学習過程

学習形態・場面

授業づくりでの活用のポイント

つかむ

見通す

調べる・考える

深める

まとめる

つなぐ

A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

(B 個別学習)

A 一斉学習

A1: 教員による教材の提示

B1: 個に応じる学習

B2: 調査活動

B3: 表現・制作

C1: 発表や話し合い

C2: 協働での意見整理

C3: 協働制作

C4: 学校の壁を越えた学習

B4: 家庭学習

電子黒板、
写真、挿絵
音声、映像な
どの活用

タブレット端
末、インター
ネットによる
情報収集、
写真、動画
の記録、マル
チメディアを
用いた資料
作品の制作

グループや
全体での話
し合い、意見
の整理、分
担しての作
品制作、交
流学習等

タブレット端
末の持ち帰り

終